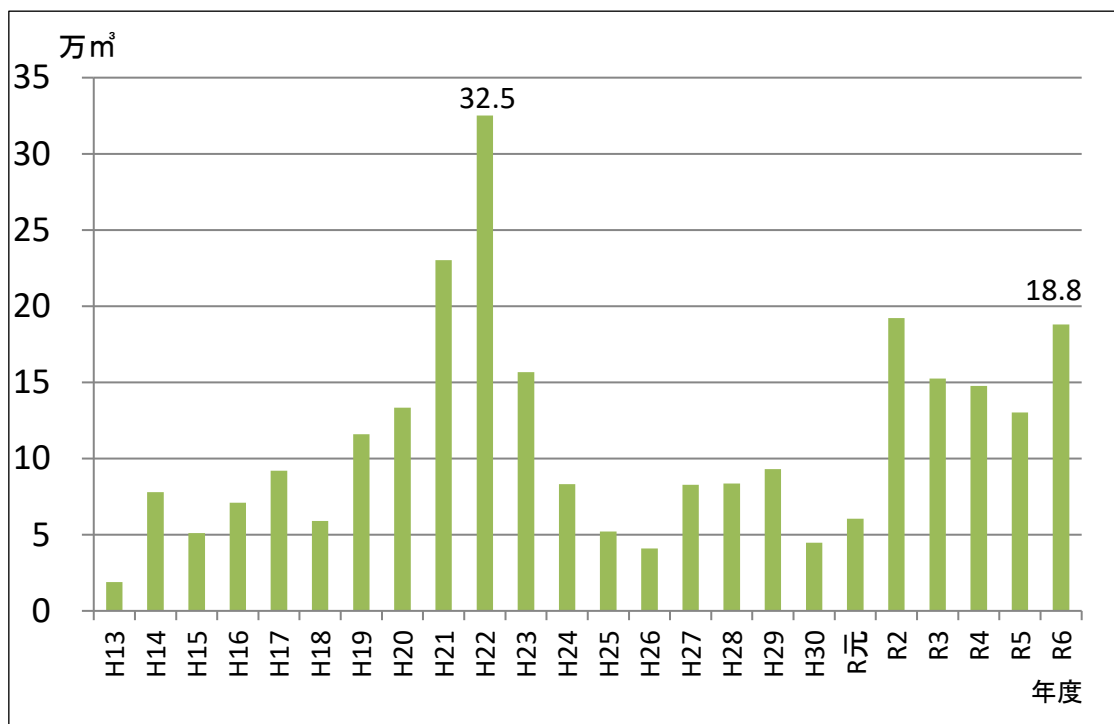


ナラ枯れ被害について

1 ナラ枯れ被害の現状

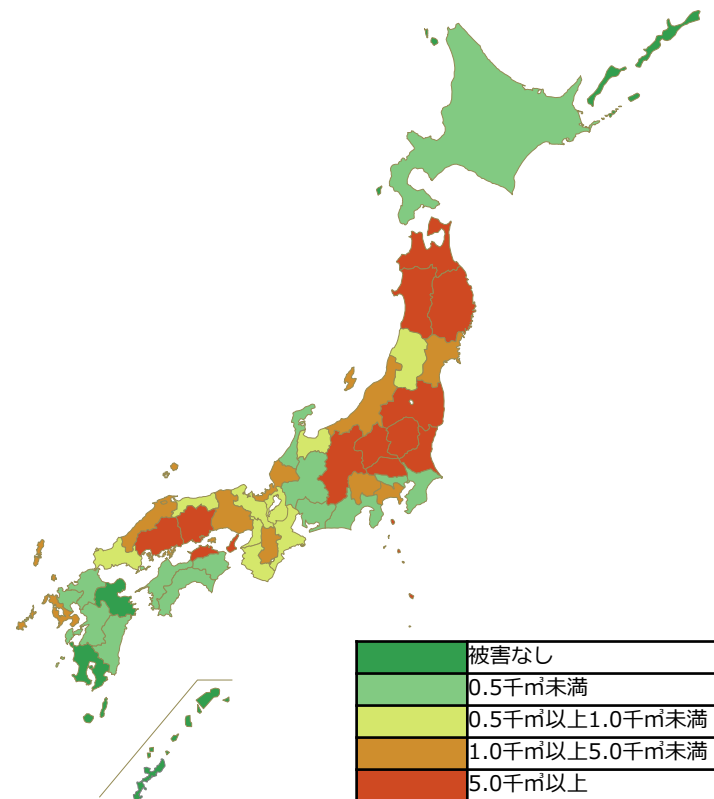
- 全国のナラ枯れ被害量は、平成22（2010）年度をピークに減少し、10万 m^3 未満で推移してきたが、令和2（2020）年度に増加。令和6（2024）年度の被害量は、18.8万 m^3 （前年度比144%）と高水準で推移している。
- 令和6（2024）年度には、愛媛県で初めて被害が発生するなど44都道府県で被害が発生。そのうち前年度から被害量が増加したのは22道県。

○全国のナラ枯れ被害量（被害材積）の推移



注：都道府県等からの報告による。民有林及び国有林の被害量の合計。
四捨五入により、都道府県別の被害量の合計と一致しない場合がある。

○都道府県別のナラ枯れ被害状況（R6年度）



2 ナラ枯れ被害の発生メカニズム

- カシノナガキクイムシがナラやシイ・カシの幹にせん入する際、ナラ菌が樹体内に持ち込まれてまん延することにより、樹木内の細胞が壊死し通水障害を起こして枯死。
- 樹体内で成長・羽化した新成虫が体にナラ菌を付着させ、別の健全なナラの個体に移動、せん入することで、周囲に被害が拡大。



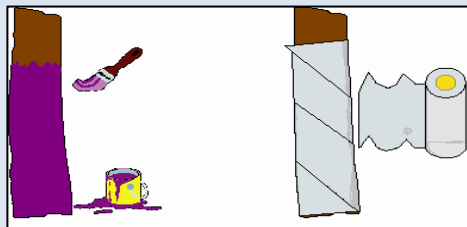
3 ナラ枯れ被害対策の概要

- 被害は、ひとたびまん延すると防除が困難なことから、被害が拡大しやすい大径木の伐採による若返りや、被害を受けない樹種への転換を図ることが効果的。
- また、特に守るべき樹木及びその周辺においては、被害が発生する前又は被害発生初期段階において、健全木への粘着剤の塗布やビニールシート被覆による侵入予防、被害木のくん蒸等による駆除等を実施。

予防

○ 予防手法

- ・ 健全木へのカシノナガキクイムシの侵入を防ぐため、粘着剤等の塗布またはビニールシートの被覆を実施（春）
- ・ 樹木を枯らすナラ菌や、餌となる酵母等を殺菌するため、殺菌剤の樹幹注入を実施（春～夏）



粘着剤等を塗布

カシナガの付着を防止するためのビニール巻き



殺菌剤の樹幹注入

その他

- ・ ナラ枯れ予防手法の実証、森林管理に係る地域協議会の開催等
- ・ 高齢林の質的・構造的な改善を目的とした整理伐等

駆除

○ 駆除手法

- ・ 被害木内のカシノナガキクイムシを駆除するため、羽化脱出前までに伐倒し薬剤によるくん蒸または焼却、破碎を実施（秋～春）
- ・ カシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施（春～夏）



材に刻み入れ



シートで被覆密閉

〔くん蒸とは〕

被害木を伐倒、玉切りした後、薬剤が容易に材の内部に浸透するよう材の表面に刻みを入れ集積し、全体をシートで被覆密閉してくん蒸剤（カーバム剤）で処理し、材内のカシノナガキクイムシを殺虫する。

地形等の条件により伐倒・集積ができない場所では立木のままくん蒸する方法もある。